

緑陰通信

News from the shade of trees

目次

- 秋の「読書週間」関連特別展示レポート …P2
- 「大人のためのおはなし会」を開催
- プレミアムフライデーは県立図書館へ！ …P3
- コラム 「小村寿太郎」 飴肥杉のごとく
- 県立図書館からのお知らせ …P4

※緑陰通信は県立図書館のホームページ
(<http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>)からもご覧いただけます。

宮崎県立図書館 名誉館長文化講演会



を開催しました!

郷土の生んだ国民的歌人若山牧水が創刊に関わり当時の文壇から注目を浴びた短歌雑誌『創作』878冊がこのたび宮崎県立図書館に寄贈されたことを記念して、同じ郷土の歌人で牧水研究の第一人者でもある伊藤一彦名誉館長による文化講演会「若山牧水と『創作』」を10月7日(土)に開催しました。

この講演会は、県民の方々に向けた文化の発信や読書振興はもとより、図書館への寄贈を通じた貴重な郷土資料の保存促進を目的としたものです。

会場となった当館2階研修ホールにはおよそ100名の参加者が集まり、若山牧水と『創作』に関する興味深い史実や、短歌雑誌としていまも色褪せない魅力についての1時間半にわたる講話を熱心に聴き入っていました。



牧水の『創作』以前の投稿雑誌について、当時刊行されていた多くの雑誌名を挙げ、牧水の生活や創作活動と投稿雑誌との関係がいかに密接であったかが語られるとともに、石川啄木の日記等に記されている牧水や『創作』に関する記事などを交えながら、『創作』発刊から現在に至るまでの牧水を取り巻く文壇や時代の移り変わりが紹介されました。



また、『創作』の主な特集号を例に取り上げて、「大震大火記念号」(大正12年10月)においては、新聞記者の経験をもつ牧水の手腕によって関東大震災の惨状が克明に記録され、出版業界の中で『創作』が大きな役割を果たしたこと、「若山牧水追悼号」(昭和3年12月)においては、高村光太郎や太田水穂など多数の詩人・歌人等から寄せられた牧水に関する逸話、思い出等が書かれてあり、牧水の控えめで愛される人柄がよく伝わってくる貴重な資料となっていることなどをくわしく解説。『創作』の意義と存在価値をあらためて実感させられる内容でした。

会場では、寄贈された『創作』を一堂に展示。重厚な色合いのカバーで製本された878冊が並ぶ眺めに、講演会後は記念撮影をしたり、手にとってページをめくりながらその歴史的な重みを感じたりと、関心の高さがうかがわれました。

この貴重な『創作』の数々は、若山牧水の高弟であった故・竹中皆二氏が生前に所有されていたもので、牧水生誕の地で活用してもらえればとのご遺族の切なる思いから寄贈が実現したものです。

今後、館内での閲覧に限り利用できます。閲覧室カウンターにてお申し込みください。





秋の「読書週間」関連特別展示レポート

10月24日（火）から11月5日（日）までの約2週間、県立図書館1階ロビーにて、今年度の宮崎県高等学校総合文化祭（高総文祭）で発表された高校生の作品を展示紹介しました。今回の高総文祭は、「文化の鐘を今鳴らそう 秋風に載せ遠く高く」（延岡高校2年栗田美桜さん作品）を大会テーマとして、9月に延岡・日向・門川地区で行われました。このうち当館で展示したのは、文芸部門、国際・ボランティア部門、自然科学部門、生徒会交流部門、弁論部門、演劇部門です。

高総文祭での高校生のがんばりやすばらしい成果・作品は、なかなか目にする機会がありません。この展示で、

- 宮崎県の高校生がこんなすごい作品を作っていたり、調べたりしていることを初めて知りました
- 文化的レベルの高さに今更ながら驚きました
- 原稿だけでなく、実際に弁論を聞いてみたい
- 演劇を見てみたかった

などといった前向きな感想が多く聞かれました。

高総文祭や高校生の文化的活動を知っていただくとともに、未来の宮崎県を支える高校生の文化に対する高い意欲と情熱、エネルギーを感じていただけたのではないかと思います。

県立図書館での展示は初めてでしたが、来年もまたぜひご案内できればと考えています。



「大人のためのおはなし会」を開催



県立図書館では、毎週火・水・土曜日に子ども向けのおはなし会をしています。初めて“大人”向けのおはなし会を8月11日（金）と11月23日（木）に実施しました。

お子さま連れのお父さんやお母さん、ご夫婦、お一人など、たくさんの方の参加があり、「またぜひ実施してください」というありがたい言葉もかけていただきました。

児童室は、子ども向けの本だけを置いている部屋と思われるかもしれませんが、じつは、大人が読んでも楽しめる本もいろいろ並んでいるんです。閲覧室だけでなく、児童室でも読書をお楽しみください。

だれかから本を読んでもらう体験は年齢とともにしなくなってしまうますが、人に読んでもらうことでその本の新しい魅力を発見することもあります。

自分で読むのとはまた違う世界が広がります。

「大人のためのおはなし会」は、好評につき第3回を1月28日（日）に開催する予定です！

【8月の「大人のためのおはなし会」で紹介した本】

- 『あおのじかん』イザベル・シムレール／文・絵 石津ちひろ／訳 岩波書店 2016
- 『Life』くすのきしげのり／作 瑞雲舎 2015
- 『なつのいちにち』はたこうしろう／作 偕成社 2013
- 『そらいろ男爵』ジム・ボム／文 ティエリー・デデュー／絵 中島さおり／訳 主婦の友社 2015
- 『みょうがやど』川端誠／作 クレヨンハウス 2012
- 『いのちのバトン 97歳のぼくから君たちへ』日野原重明／詩と文 いわさきちひろ／絵 ダイヤモンド社 2008

◆◆◆◆◆ <ミニ調べ方ガイド> ◆◆◆◆◆

レファレンスカウンターでは、みなさまのお調べもののお手伝いをしています。実際にお受けした事例から、お調べものに役立つ資料やWeb情報についてご紹介します。

今回はWeb情報

「地図・空中写真閲覧サービス」（国土地理院）
<http://mapps.gsi.go.jp/>

このサイトでは、国土地理院が保有する過去から現在の地図や空中写真を閲覧できます。宮崎県の航空写真は、昭和22年撮影のものから見る事ができます。ぜひご覧ください。

県立図書館ホームページ「レファレンス（調査相談）」→「調べ方ガイド」もありますので、どうぞご利用ください。



県立図書館ホームページ



プレミアムフライデーは県立図書館へ！



月末金曜は「プレミアムフライデー」です。

お仕事を早めに切り上げたその日の午後は、普段できないことにチャレンジするなどいつもとはモードを切り替えて、充実感や満足感、幸福感を得られるようなポジティブな生活スタイルを楽しむ時間です。

食事やショッピング、スポーツ、レジャーなどいろいろな選択肢がありますが、図書館でゆっくりと知的な時間を過ごすというのはいかがでしょうか。

県立図書館では、毎月のプレミアムフライデーに合わせて工夫を凝らしたミニイベントを開催し、ご来館とご利用を呼びかけてきました。10月までの模様を一挙にご紹介します。

5月26日 (金)



手始めの第1弾は「家族そろって県立図書館へ」をテーマに、ファミリーを対象とした絵本の自由読書とおはなしアニメのミニ映写会を実施しました。

6月30日 (金)



毎日がんばる方への健康づくりをお手伝い。メンタルチェックや血圧測定も行う健康講座と、プロインストラクターによるヨガ教室を実施しました。

7月28日 (金)



夏休みの時期にピッタリの企画として、自由研究にもお役に立つ、図書館での「調べる学習」のしかたやまとめかたを親子で学ぶ講座を実施しました。

8月25日 (金)



夏休みの思い出づくりに、おすすめの本を紹介するオリジナルPOPカードの作りかたを学び、実際に材料を使ってつくる体験講座を実施しました。

9月28日 (木)



「レコードコンサート」と題して、アナログレコードを使ったクラシック音楽などの演奏と、音響技術などレコードにまつわるトークを実施しました。

10月27日 (金)



お仕事や実生活でも効果を発揮するコミュニケーションの上達を目指して、ゲーム形式によるユニークなコミュニケーション講座を実施しました。

2017年最後のプレミアムフライデーイベントは、12月22日(金)に開催します！

題して「**大人のためのブックトーク**」。今回は、県立図書館所蔵の約70万冊の本の中から、暮れから新年にかけてじっくりと味わっていただきたいおすすめの本を、司書スタッフがご紹介します。

参加者全員に、紹介した本のリスト・当館作成のオリジナルグッズ等をさしあげます。みなさまお誘い合わせの上、ご参加ください。



● コラム 「小村寿太郎」 飢肥杉のごとく

日南市飢肥の出身であり、外務大臣としてポーツマス講和条約の締結や不平等条約の改正など、数々の外交功績を残した小村寿太郎は、生涯、病とも闘い続けた人生でした。外交官時代には腸チフスを患い、一時は危篤状態にも陥り、東京病院（慈恵医大）に入院をしました。ちなみに、この時の院長は、高木兼寛（宮崎市高岡町出身）で、主治医は日高昂（日南市飢肥出身）でした。この時、小村は、「俺は十年に一度は、死ぬような病気にかかるが、まだなかなか死にはせん」と語っています。

その後も病に倒れますが、それでも激務である外交の場に戻っていきます。まるで、飢肥杉のごとく天に向かってまっすぐに誠実に生き抜こうとする精神が小村の核心にあり、日本外交の礎を築いていったのではないのでしょうか。



長崎留学時代 侯十五才の時

【小村寿太郎侯 写真帖より】
（実物写真帖は外務省保管）

県立図書館からのお知らせ

■読書団体の紹介

(公社)読書推進運動協議会では、毎年「読書週間」行事の一環として、全国の読書グループの活動奨励のため各県の推薦を受け、優良読書グループを表彰しています。

宮崎県ではこのたび、高鍋町で活動する「たまごのぼうけん」が受賞され、高鍋町役場において表彰伝達式が行われました。

「たまごのぼうけん」は、黒木さくらさんを代表に、町内の小・中学校を拠点に活動する読み聞かせボランティアの団体で、発足して15年目を迎えます。

これまでの読み聞かせの活動のほか、町内でのイベント出演や学校図書館の環境整備に携わるなどの積極的な活動が評価され、平成26年度には宮崎県の「みやざき子育て支えん隊」にも認証されています。

団体の今後ますますのご活躍をお祈りいたします。



■図書のご案内

〔名譽館長おすすめの本〕



『リーチ先生』 原田マハ／著 (集英社)

今年の「新田次郎文学賞」受賞の小説。日本の美を深く愛したイギリス人の陶芸家のバーナード・リーチと彼をめぐる柳宗悦や濱田庄司などとの友情が感動を呼ぶ一冊である。著者は美術館勤務の経験を持つアートの実験家である。

〔新着図書紹介〕



『日本の武士100人の履歴書 鬼武者にも裏の顔!?!』 矢部健太郎／監修 (宝島社)

勇猛果敢に戦場を駆け回る姿がクローズアップされてきた戦国武将たちにも、日常生活があり、複雑な人間関係があり、さまざまな趣味や逸話があった。中近世を生き抜いた武士たちの等身大の姿を「履歴書」に書き出し、その知られざる一面に迫る。(トーハン書評より)

■神話・民話の語り部を派遣します！

県立図書館では、「未来へつなぐみやざきの神話・民話継承人財育成事業」の一環として、神話・民話の語り部を派遣しています。学校からは子どもたちに神話や民話を語って聞かせる授業での活用、公共施設からは各種講座の講師等、これまでも多くの派遣依頼をいただきました。

市町村の図書館等で開く行事の1コマとして、または公民館等で行う講座の一つとしてなど、語り部のプロを招いてみませんか。派遣に伴う諸費用は、宮崎県立図書館が全て負担いたします。

県内に80余名の登録をいただく「みやざきの言の葉」語り部の派遣を、ぜひご検討ください。



12月25日(月)に今年2回目の理科読授業の開催が決定しました！
県立図書館から小学生のみなさんに贈るクリスマスプレゼントは、楽しい科学の実験と本の読み聞かせです。

県立図書館の資料の購入には、宝くじの収益金の一部が使われています。 宮崎県

ただいま参加申込受付中！

※募集定員に達した場合は、ご容赦ください。

ご利用案内

開館時間 ■一般閲覧室：9:00～19:00
■児童図書室：9:00～17:00

休館日 ■毎週月曜日(祝日の場合翌日)
年末年始：12/29～1/4
特別整理期間：2/19～2/26

編集・発行

● 宮崎県立図書館

住所 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1
TEL ■0985-29-2911 (総務・企画課)
FAX ■0985-29-2491 (総務・企画課)
HPアドレス ■<http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp>

